

平成 24 年度 公益財団法人新宿未来創造財団第 2 回評議員会議事録

1 日 時 平成 24 年 12 月 10 日(月) 14 時 02 分から 16 時 09 分まで

2 会 場 新宿区大久保 3-1-2 新宿コズミックセンター 5 階 大研修室

3 出席者 評議員現在数 19 名 定足数 10 名

[評議員出席者]

評議員 有賀 靖典	評議員 遠藤 剛	評議員 金 根熙
評議員 小菅 知三	評議員 坂本 二郎	評議員 杉原 純
評議員 鈴木 豊三郎	評議員 高橋 和雄	評議員 丹羽 正明
評議員 橋本 隆	評議員 原 妃紗子	評議員 舟田 勝
評議員 星山 晋也	評議員 谷頭 美子	評議員 吉村 晴美

以上 15 名

[同席者]

事務局長 藤牧 功太郎	主幹 鯨井 庸司	事務局次長 諏訪 丹美
-------------	----------	-------------

欠席者 [評議員欠席者]

評議員 阿部 正幸	評議員 今泉 清隆	評議員 大野 哲男
評議員 大和 滋		

以上 4 名

出席職員 26 名

4 議題

(1) 議事事項

議案第 2 号 平成 24 年度 事業計画及び収支予算の補正について

議案第 3 号 平成 24 年度上半期事業執行状況及び資金運用業務状況報告について

5 定足数の確認

15 名の出席があり、評議員会運営規程第 9 条の規定により、評議員会は有効に成立していることを確認した。

6 議事の経過の概要及び結果

定款第 18 条の規定に基づき、出席評議員の互選により高橋和雄が議長席に着き、出席評議員の同意を得て、本評議員会の議事録署名人に鈴木評議員、杉原評議員の 2 名を選出し、議事に入った。

(1) 議案第 2 号 平成 24 年度事業計画及び収支予算の補正について

藤牧事務局長より平成 24 年度議案第 2 号について、資料に基づき説明が行われた。その後、質疑が行われ、議案を原案通り全員一致で承認した。

(2) 議案第 3 号 平成 24 年度上半期事業執行状況及び資金運用業務状況報告について

藤牧事務局長より議案第 3 号について、資料に基づき説明が行われた。その後質疑が行われ、議案を原案通り出席者全員一致で承認した。

7 報告事項

- (1) 評議員の選任について、諏訪事務局次長より資料に基づき説明が行われた。
この報告事項についての質疑は出なかった。
- (2) 契約職員就業規則の改正について、諏訪事務局次長より資料に基づき説明が行われた。
この報告事項についての質疑は出なかった。
- (3) 財団経営計画策定の進捗状況について、鯨井主幹より資料に基づき説明が行われた。
その後質疑が行われて、意見が出された。
- (4) その他
 - ①第 11 回新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソンについて
その後質疑が行われて、意見が出された。
 - ②災害時対応に関する基本協定の改正等について
この報告事項についての質疑は出なかった。
 - ③職員給与規則の改定について
この報告事項についての質疑は出なかった。
 - ④新宿区立新宿文化センター年末年始休館期間中の開館について
この報告事項についての質疑は出なかった。
 - ⑤新宿区立佐伯祐三アトリエ記念館及び新宿区立中村彝アトリエ記念館指定管理事業計画書の提出と指定管理者の選定通知の受理について
この報告事項についての質疑は出なかった。

その後、事務局より 1 件の報告がなされた。

以上で議事を終了し、閉会した。

以上、この議事録が正確であることを証明するために、出席した議長及び議事録署名人は次の通り署名する。なお、軽易な文言の修正は、議長に委任する。

平成 年 月 日

議 長 高 橋 和 雄

議事録署名人 鈴 木 豊三郎

議事録署名人 杉 原 純

平成 24 年度公益財団法人新宿未来創造財団第 2 回評議員会
議事録

平成 2 4 年 1 2 月 1 0 日

○高橋議長 それでは、これより議事に入ります。

議案第2号 平成24年度事業計画及び収支予算の補正についてを議題に供します。事務局の説明を願います。

〈資料に基づく説明省略〉

○高橋議長 それでは質疑に入ります。

○小菅評議員 オリンピック・パラリンピック誘致の機運を盛り上げるため、新宿区町会連合会においても署名活動を行っています。私の町会でも個別にA4判の署名用紙を持って、一軒一軒回りましたが、署名があまり集まりません。私の地元の牛込地区では盛り上がりには欠けています。写真展と講演会で気運が盛り上がるか疑問です。あるいはシティハーフマラソンでブルゾンを着てPRするというのですが、パブリック・リレイションになるのかどうか。もう少し、区民に直接オリンピック招致の気運を高めるアイデアはないかと感じています。シティハーフマラソンも写真展も、特例の区民を対象とした事業に思えるのですが、いかがでしょうか。区民に直接PRできるような運動はないのでしょうか。

○藤牧事務局長 オリンピック・パラリンピック誘致への支持率は、69%くらいまで回復してきています。来年度にはオリンピックの招致先が決まるため、今回オリンピック・パラリンピック招致の補助金をもらうのはこの2事業ですが、未来創造財団としては、例えば夏場にオリンピックのメダリストやトップアスリートをコズミックセンターに呼んで、400名近い子どもの参加を得た事業を行ったり、さまざまな場面でロゴマーク入りの招致気運を高めるグッズを配布したり、あるいはイベントのたびにオリンピック招致の紙芝居を上演したりしています。また、来年度は国体が東京で開催されるため、来館者の方などにもきめ細かにPRに努めていきます。

○小菅評議員 ありがとうございます。

○高橋議長 よろしいですか。小菅委員に良いアイデアがあるのではないですか。

○小菅評議員 やはり、学校関係者あるいは教育委員会の協力がないと、子どもたちには浸透しないと思います。もう少し学校関係、子どもにアプローチできないでしょうか。子どもは保護者につながっていますから、全体の気運があがるのではないかと感じています。

○藤牧事務局長 先ほどご紹介しました、今年の夏のキッズスポーツサミットは民間の団体と連携して開催したのですが、チラシについては教育委員会の協力をいただいて、各学校に配布させていただきました。今後も各学校や校長会、副校長会を通じて配布に努めていきたいと思っています。

○小菅評議員 先日、紙芝居をコズミックセンターのロビーで上演したのですが、とてもフレンドリーで、身近な感じがしました。テレビ等の映像と違ったホットな感じがするので、紙芝居を学校に持ち込むことはとても効果があると、私も紙芝居を見ながら感じました。

○原評議委員 他区の事例ですが、この夏、北島康介選手がプールで子どもと一緒に泳いでくれたそうです。そのようなことは財団としては考えていないのですか。

○藤牧事務局長 各学校を活用して学校開放であるとか、あるいは放課後子どもひろば等の事業を展開しています。各学校長や教育委員会とも十分検討してオリンピック気運を醸成し、子どもたちにも伝わっていくように努めていきます。

なお、コズミックセンターでも、新宿区出身でマーメイドジャパンの三井選手をお呼びする事業を行っています。

○高橋議長 他にはいかがでしょうか。

○谷頭評議員 生涯学習・地域人材交流ネットワーク制度の整備ですが、生涯学習活動団体の活性化を図るため、インターネット上で会員募集等の周知を行うとありますが、今、団体の活動が非常に停滞しています。文化センターにおける絵画展等も、出品がだいぶ減っていますし、エコギャラリーでも団体が高齢化し、今年は施設の空きが増えてしまったそうです。やはり、団体の活性化のため

めに会員を募集するシステムは、何かいいアイデアがないと、継続していくこと自体も難しいのではないかと感じています。

それから、団体が自主的に会員を募集して会員を増やしたり、新しい講座によってグループができたりということはあるのでしょうか。

- 諏訪事務局次長 ご意見をいただいたとおり、生涯学習館やコスミックセンターにはいろいろな活動団体がありますので、そのご意見を聴取していますが、昨年度はやはり団体が高齢化し、新たな会員がなかなか入ってこないとの意見がたくさん寄せられました。それも含めて今回、インターネットシステムを作ろうということです。

区内は施設が少ないので、新しい団体を作っても、例えば学習館は80%、90%埋まっている状況で、活動場所がありません。私どもが考えているのは、既存の団体に新しい血が入って活性化していただきたいということです。そのためにはどうすればいいかということを考え、システムを導入することとしました。活動団体の方に、システムを開発途中で見ていただいて、新しい会員の方に入ってください工夫を取り入れ、皆さんと一緒に使いやすいシステムを考えていきたいと思っております。

- 谷頭評議員 私自身もインターネットが不得手なのですが、高齢者の方がインターネットを利用するのというのは、どうでしょうか。

- 諏訪事務局次長 生涯学習館の利用者懇談会でも、そのようなお話がありました。ただ、紙ベースでも皆さん苦労していて、区内のお風呂屋さん全部にチラシをまいても、結局一人も集まらないこともあったそうです。システムを作って、生涯学習館の館長や学習・スポーツ課の職員が利用の仕方を丁寧に説明し、活動が広がっていくようにしたいと考えています。

- 高橋議長 これは、どうやって利用するのですか。インターネットで、双方向で利用できるのでしょうか。

- 諏訪事務局次長 そうです。

- 高橋議長 利用方法を説明していただけますか。

- 世良学習・スポーツ課長 まず、ご自分が皆さんにお知らせしたい内容も含めて、インターネットで登録していただきます。利用される方はそれを見ていただいて、自分たちにあった団体を選んでいただくようになります。これから業者を決めて、利用団体の方と調整しながら、使いやすいシステムを作っていくと思っています。

- 小菅評議員 人材バンクの活用は、長年の懸案事項であったと認識しています。しかも自主財源を400万円かける新規事業ですからその内訳、スタートと終了の時期、区内のスポーツ・レクリエーション団体も加入できるのかを教えてください。

- 諏訪事務局次長 新規事業とおっしゃいましたが、これはもともと人材バンクという、新宿区の計画事業です。これを財団が請け負って、ずっと紙ベースで実施してきましたが、今回、400万円の自主財源をシステムの開発に充てます。

このシステムは、元の人材バンクの登録者しか利用できないとは考えておりません。いずれは新宿区の全ての活動団体が登録して、検索できるようにしたいと考えています。

先ほどマッチングというお話がありましたが、私どもの方にも歌を歌いたい、あるいは演劇をやりたいけど団体を知りませんか、というお問い合わせをいただくことがあります、全ての団体は把握できていません。

今回のシステムは、例えば地区や活動日で検索できるように考えています。当初は財団が把握している人材を載せていくことになるかと思いますが、将来的には区で活動するすべての団体がこのシステムを使うことによって活動を活性化したり、また団体と団体がドッキングして新たな活動が生まれるように育てていきたいと、理想を高く持っています。

- 小菅評議員 ありがとうございます。

- 高橋議長 他にはありますか。非常に大事な事業のような気がします。

- 谷頭評議員 シニアで何かをしたいという人と、団体に入ってもらいたい人のコーディネートをうまくやっていただきたい。
- 高橋議長 見た人が問い合わせをできるような仕組みにしておかないといけないと思いますが、それはできるのでしょうか。
- 諏訪事務局次長 団体のご意見を聞いたうえで、たとえば連絡担当者の電話番号とか、これなら載せてもいいというものを載せていって、うまくいけば間に財団が入ることもできる形にしたいと考えているところです。
- 高橋議長 他の方はどうですか。
- 原評議員 そういう時のお知らせや広報は、財団の広報紙にでるということですか。
- 諏訪事務局次長 広報紙にも出しますし、財団ホームページにも掲載する予定です。
- 高橋議長 評議員が皆期待していますから、頑張ってください。他の件はどうでしょうか。
- 有賀評議員 シティハーフマラソンのお金の使い方ということで1点です。740万円使われるということで、お金の使い方に配分に関してはわからないのですが、オリンピック招致のために、オリンピック招致のマークの入ったベンチコートの1,600着というのは非常に気になるところです。結局、マラソン大会当日のみの周知で終わってしまうのではないかと懸念があります。もう一点、我々青年会議所も2月に東京都と協力してオリンピックのイベントをやりますが、都からは、2月では遅いと言われてしまうのです。シティハーフマラソンのある1月末でも多分遅いと思うのです。新宿シティハーフマラソンも、認知度が高いと思うんですが、意外と開催時間が早くて、区民を巻き込めていなかったり、コースをたどると、そんなに応援の人がいない。参加者はわかっているのですが、参加者は区外の人も多いでしょうし、もっともっと区民の人にPRする意味で、どちらかというと事前のPRと、事前の告知にもお金をかけていいのではないかと思います。あと、ベンチコートも冬限定になってしまうのですが、是非、他でも着てくださいと必ず呼びかけてほしい。本当は前もって渡し、どんどん着てもらい、ぼろぼろになるぐらいの状況でマラソン大会当日を迎えるぐらいの工夫もしてほしい。是非、当日ベースに終わらないように、他でも着ていただければと思います。
- 小菅評議員 賛成です。
- 諏訪事務局次長 これにつきましては、一応、区のほうからオリンピック招致に関する予算をご提示いただいたのが、年度内の事業であればよいということでした。私どもとしても、突然だったので、先ほど小菅委員からもご指摘ございましたが、考える時間が少なかったのは確かです。ただ、私どもの事業の中で、全国からお客様がいらっしゃり、一番人目に触れる事業は、このシティハーフマラソンです。スポーツ好きの方がいらっしゃると考えています。私どももマラソン当日の1日のみベンチコートを使うのは、どうかと思っており、東京が2020年のオリンピック開催地になるという信念のもとに、2020年のオリンピックの時まで、毎年着させていただこうと考えています。東京でのオリンピックが決まれば、ベンチコートの胸のマークを「東京オリンピックを成功させよう」というものに変えられるようにしてあり、2020年まで使わせていただく予定です。
- 有賀評議員 9月が発表ですので、一緒に頑張らせていただきます。よろしく願いいたします。
- 高橋議長 他の方はいかがですか。
- 杉原評議員 林芙美子関連記念事業ですが、1,000万円のご寄附をいただいて、このたび230万円の建物を紹介する映像を作成するということですが、今後、この基金を生かした事業はどのようなことをお考えでしょうか。
- 守谷学芸課長 今年度、まず第1回目の事業を開始し、映像資料を中心に作っていかうと考えています。来年度は、生誕110周年ということで、新宿歴史博物館のある新宿区、北九州市、鹿児島市、尾道市という4自治体。これらは林芙美子が生涯深くかかわった地域です。ここで特別展示の巡回展を予定しています。その中で今年作成した映像も提供していく予定です。その後は、石蔵という

ところが施設内にあり、現在、そこを簡易的な展示施設にしておりますが、そこをもっと展示に適した施設に変えていく計画をしていたり、実際の展示にかかわる資料目録をその4自治体含めて、つくろうという調整をしているところです。また、それ以降は、計画的に、その年に合った事業を継続的に展開していく予定であり、林芙美子記念館を広く知っていただこうと考えています。

○高橋議長 よろしいですか。

○杉原評議員 先だって「放浪記」の舞台を長く務めた女優が亡くなりましたが、林芙美子の功績をアピールされた功績として、とても大きなものがありますね。財団として「放浪記」の舞台の関係者とタイアップして、女優さんと関連した試みというのはお考えですか。

○守谷学芸課長 実は、今現在も森光子さんが亡くなられた後、すぐ新宿区と財団で弔意を示させていただき、「放浪記」の関連の展示も一部、林芙美子記念館で行わせていただいています。この後、放浪記がどういう形で使われていくかわかりませんが、今までも東宝と森光子さんの舞台の時には広報活動や、働きかけをさせていただきました。今回、森光子さんの葬儀にもご案内を受け、館長初め出席をさせていただきました。

○高橋議長 よろしいですか。他にはいかがですか。それでは、議案第2号の事業計画及び収支予算の補正について、発言がなければ質疑を終わらせていただきます。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○高橋議長 それでは、議案第2号の事業計画及び収支予算の補正について、報告どおり了承するということにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○高橋議長 異議なしと認め、議案第2号は、原案どおり承認することとします。

○高橋議長 次に、議案第3号 平成24年度上半期事業執行状況及び資金運用業務状況報告についてについて、説明をお願いします。

<資料に基づく説明省略>

○高橋議長 事業の執行状況と、資金の運用状況について説明がありました。この第3号議案については一括してご質疑をお願いします。すべてうまくいっているように聞こえますが、問題はないと理解してよいですか。

○藤牧事務局長 今年度は執行方法なども工夫をし、できるだけ目標に近づくように実績が推移しているということと、昨年度に比較すると。昨年度は震災など、いろいろとありましたが、今年度はおおむね順調に推移していると認識しているところです。

○高橋議長 どうぞ。

○杉原評議員 事業報告では、区民健康マラソンと新宿シティハーフマラソンについて、計画内容では、参加者数2万2,500人が目標とされていますが、この後予定されている報告の資料では、9,300人が募集人員となっている。この目標とした2万2,500人との差の1万3,000人というのはどういう種類の人ですか。

○世良学習・スポーツ課長 この2万2,500人はシティハーフマラソン当日に開催する明治公園のイベントの来場者も含めた人数になっています。

○高橋議長 よくわかりませんが、参加者というのは、マラソンに参加する人と違うのですか。

○藤牧事務局長 後ほどご報告いたしますが、いわゆるランナー、走る出走者イコール参加者ではな

く、出走者プラス、これは区民の皆さんのスポーツの祭典であるということで、国立競技場の近くにある明治記念公園で大きなイベントを行います。そのイベントへ来場された方も含めての人数ということです。

○高橋議長 わかりました。他にいかがでしょうか。

○谷頭評議員 日本語学校の支援事業についてですが、余り詳しくはないのですが、内容的にはうまくいっていますか。

○青木文化交流課長 日本語学校、教室は、大人を対象としたものと、子どもを対象にしたものに分かれていますがおおむね順調です。特に子どもの放課後支援については、平成24年度の年間の目標数値が61人ですが、すでに上半期66人のお申し込みをいただいているところです。需要が大変増えており、特色といいますとこちらが非常に伸びていることです。要因としては、担当が学校内で行う日本語学習とそれが終わった後にそのサポートとして区民のボランティアの方が補習的な学習支援をしてくれるということを粘り強く学校に足を運んで、先生とパイプをつくり、先生が学校の正規の授業が終わった後に、こちらがあるよということを伝達していただいた成果だと思っているところです。来年度に向けて教育委員会とさらなる連携の拡充を目指して頑張っていきたいというところです。

○谷頭評議員 子どもは早く覚えるようですが、親御さんに対する日本語を教えることはどうなっていますか。

○青木文化交流課長 親子の日本語教室ということで、毎週土曜日に託児つきで大久保小学校のつづじルームを借りまして行っているところです。私も何回か拝見しましたが、ご夫婦や、お子様を保育士の方に預けて学んでいるお母様がいらっしゃいます。覚えることは、子どものほうが早いので、大人の方には、丁寧に環境を整えて実施しているところです。

○高橋議長 他にございますか。

○原評議員 教育委員会が主催で国際理解教育について、学校を退職した校長先生を担当者としてコズミックセンターに招集し、学校に入ってきた子どもたちのために授業中に派遣する事業なのですが、それとこれとは全く違うものですか。

○鯨井主幹 今の国際理解教室については、現在も教育委員会が初期指導として、コズミックセンターにある教育センターで実施しています。まず、外国から日本に転入、入学された全く日本語になれていないという方について、マンツーマンで教育委員会が初期指導をやっています。その初期指導を終わった児童・生徒に対して引き続き日本語学習、生活面でのアドバイス、あるいは学習面の指導などを支援していくというのが我々の日本語学習指導です。そういった役割分担となっています。

○原評議員 わかりました。ありがとうございます。

○高橋議長 他にいかがですか。

○原評議員 4号事業費のところ千代田湖・女神湖へ小学生を連れて行く事業が区の直営になったという説明がありました。例えば食事とかそういうものは、全部、財団への委託事業だった記憶があるのですが、区の直営になったということは、区に所属している職員がそこに行って直接にやるという理解でよいですか。

○河野子ども・地域課長 これにつきましては、基本的に区のほうで改善していくということがあり、区の職員が地元の業者と委託契約を結んで、地元でやるという形になっています。

○藤牧事務局長 先ほど「直営」という言い方をしましたが、施設を区が直営でやるということではなく、女神湖と千代田湖への夏季施設に小学生を派遣して、そこで活動を行うというものについて、今まで未来創造財団がその派遣をし、引率をすることを受託していたのですが、今年度からは教育委員会が別のやり方でやるということになりましたので、受託を受けなくなったということです。

○原評議員 わかりました。

○高橋議長 よろしいでしょうか。他によろしいですか。まだ年度途中の報告です。決算の際には、

またご審議をいただくことになると思います。以上でご質疑はよろしいですか。それでは、上半期の事業執行状況及び資金運営状況の報告について、これを了承するというご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○高橋議長 異議なしと認め議案第3号を原案どおり承認することとします。それでは議事を終了します。

(以下、報告事項は省略)